

塵点録 五十一

049
73
51



塵點錄

歌

五十一



五甲

備付	品目	年月日	縣費第
文書		昭和28年5月7日	五
課			號



A049
73
51

歌の部 万葉集卷之百八一首

愛知縣史編纂係と印

思ひやりまに出に玉のあはるん恋ぬくん玉結ひ
玉入りぬいたとこもまのひも結ひぞもま
はぬ百葉のうらに人づはのさ青あふとあまの
飛さふとま國久〜〜〜

県文化 昭 33.7.30 40298

神代〜〜〜
宣明、秋年の歌あり五月婚姻と云々〜の書〜
めやま國古〜の書〜
まぢのあはるまをれに〜
りの〜五月め 一の物あまの神代〜
めや

見よるものそにおおきうりこ竹の楊枝につるさし

菅家の序記もあつて竹の楊枝と云ともくさぬ

是もなま今も信男にさひ傳ふと多ハ古寄より

本集等と考ふべし

あはき男のうさめつと友もぐれ人の信ハ世のり

。后相承院承傳の母三條ありらる桶信りの女より

及びあつて雲の上あふけさほとあめり

い哥醒睡抄あつてたり

。少好吉保朝臣松平甲府と封せし味

わくそりる君もはるる甲斐の山あつて

連歌

。安宅掃部アタキ冬康達守の序にあつて

古沢の海に方より野とるる

とあつて

唐カラの華ハナ女メと

と付て存念ゾンにむいふ方ある老付死シはり

ゆと静シズカに持露チルをそとまてゆり

。宗紙ソウシハ連寄レンキに名と於一人あまも欲カゆり

高書タカシに新ニホ免玖メク階集カエと撰セたり

一より中ナカあ

選見センミ抗波コウハ錢使入ゼンシイ 不論セムシ上手ウヘと下手ヘ

信長公の御家藏からして
 正十年六月御所奉納の書
 信長公の御家藏からして
 正十年六月御所奉納の書
 信長公の御家藏からして
 正十年六月御所奉納の書
 信長公の御家藏からして
 正十年六月御所奉納の書



私云彼教ハ兼敏法師の歌と等續信撰集夏の巻ニ

五月雨ハ津田の細江のこゝと云ふ一足らぬとぬらぬと云ふ

津田細江ハ八幡寺に據テの名所の由記なりそのあり

藤原及び勅撰名寄等の説も同一源流也古

歌と引くをばと云ふと五文字と改め入ぬぞと云

字ニ引くもと云ふ見のこゝと云ふと云ふと云ふと云ふ

恒龜山院の御製ハ新撰古今集入りあるは村上院の

正奇あまのこゝと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

恒龜山院御撰の御製ハ新撰古今集入りあるは村上院の

正奇あまのこゝと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

浄土宗かゝる ^{何の丹} 浄土宗かゝる 浄土宗かゝる 浄土宗かゝる
天子ヲツクセ侍し 浄土宗かゝる 浄土宗かゝる 浄土宗かゝる
浄土宗かゝる 浄土宗かゝる 浄土宗かゝる 浄土宗かゝる
浄土宗かゝる 浄土宗かゝる 浄土宗かゝる 浄土宗かゝる
浄土宗かゝる 浄土宗かゝる 浄土宗かゝる 浄土宗かゝる
浄土宗かゝる 浄土宗かゝる 浄土宗かゝる 浄土宗かゝる

秀吉 聚楽城 高麗の海に おもひ給ひたる 一首の歌と
海ぞる

〔浄土宗かゝる 浄土宗かゝる 浄土宗かゝる 浄土宗かゝる〕
浄土宗かゝる 浄土宗かゝる 浄土宗かゝる 浄土宗かゝる

西行の尼やぐを有りたるは 幸号月日諱と云ふ也
と云ふの意は 浄土宗かゝる 浄土宗かゝる 浄土宗かゝる
浄土宗かゝる 浄土宗かゝる 浄土宗かゝる 浄土宗かゝる
浄土宗かゝる 浄土宗かゝる 浄土宗かゝる 浄土宗かゝる

中納言家定 浄土宗かゝる 浄土宗かゝる 浄土宗かゝる
肥後守公定 浄土宗かゝる 浄土宗かゝる 浄土宗かゝる

西行の在東州也 聞知庭有私教撰集之事
謂余所詠亦可有採入時 向西都途次逢
登蓮法師談及茲登蓮曰撰集甫就定下
之佳什因多取焉 西行曰鳴起沢一首奈何

登蓮曰偶忘失耶不入選也西行曰此猶漏脱然則其撰集不足觀也已遂不西步而自半途又東矣

了あさあしよる衣あきもりり時よはの秋の夕暮

モロト エトツ
。百人一首の身の蜀魄

たごみぬかゝとささき

百人一首の身の蜀魄一あまのこころな
御ちちの左大臣 郭ろはつとことなることいた
みぬの月そはとと。又玉生忠孝あはれのこと
みしつとささきとらつ月ぞうらうとあまの
是則らささきけあはれの月とささきと
あまの白雪たごみぬかゝとささきと
是は後一位と通る京都降りてあまの
或人内務と需借りてあまのこころな

てはうたを何そび
。おもはれどなく ス文 集ケトウク

細川三浦伝言とく

いよゝゝゝ 住里とあふらん清きものな
枯ゆよまきは志水ミズ法師は

あふゝゝゝ 何とそ住居やんこのそゝゝゝ
思

述懐此一

住水尾院

るゝのそ一たむ古へのそゝゝゝ

閑居

あより移あぢぢおぢあゝ隠せおぢゝゝゝ屋のせの中

。仙洞の浄製の中一る十三代

天地よあま福くゝゝゝ春の色とたぢ花名の上たぢえん

天う下出雲い雲のなゝのせぢぢぢ代の海の春よあぢん

桑 花よゝゝゝ春と花のなゝゝ春を掃う方にはゝゝゝ

山岩 乃納言先友郷

山 乃納言先友郷の風の小ぢ はゝゝゝ

致仕のは中納言もろりたりて 前中納言光忠

信山ノホもろりたるもろりたるのまゝと書澤の里ぞよきなりたる

○新田もろりたるもろりたるもろりたるもろりたるもろりたる

○新田もろりたるもろりたるもろりたるもろりたるもろりたる

○新田もろりたるもろりたるもろりたるもろりたるもろりたる

以奇と内の女房の徳と梅町の中納言モリケ範のほど

文事に入るともろりたるもろりたるもろりたるもろりたる

少野町もろりたるもろりたるもろりたるもろりたるもろりたる

月もろりたるもろりたるもろりたるもろりたるもろりたる

以五文字月もろりたるもろりたるもろりたるもろりたる

もろりたるもろりたるもろりたるもろりたるもろりたる

もろりたるもろりたるもろりたるもろりたるもろりたる

小の字もろりたる

右もろりたるもろりたるもろりたるもろりたるもろりたる

詞百九十餘首ヲ注解セリ

●表撰法師我いふのみに 本のもろりたるもろりたるもろりたる

水の沖もろりたるもろりたるもろりたるもろりたるもろりたる

為富は夢之の名もろりたるもろりたるもろりたるもろりたる

入らしざりし一冊は西葉集の入りなり

・二葉行書の本は今の御書なり 志度は固書のためにかたりと

よみひたる **筆**にあらむの故にこれほど **三百年**を宿の

題は行契しり遣事といふよりなり **五文字**にるる山のふもろと思ひ

出でらるるれ妙なり

・兼良公人丸の賛子 水之波家にあり

「こととりんよ」の梅雲とん 一 ちんこことんあゆむ

かぶの文字とりに源氏枕に御書日記とて先達とて

こゝにたれとてなるまより上まかりわたり

女婦のこゝに名あたる人のあはれ代りたすふと漢字

ふとちりちりびとを懐かしくおぼせりておぼせかたなり
あつてをいひしりてなる侍れ

・西行法師の書に

心かゝる御書なりてなるり ちり我れなりなり

は前上りの文字ニツ下の白に文字ニツといふ

たれしりくよはれり

・吾 改りのよきなり

るよてい流し流しのよきを人のあつての圖りはの本

・夫木集の 寂道の書に

浅茅原古 卒如安の契りといふ隣りあるあつてはるる
新後古今之は流に原よりくつめりる男のあつて

つと侍りたりあはれありあんと〜〜の死ねぞうあわめ
世にいくまの地を〜〜ひひらきよ 傀儡阿、

死ぬ半減母あぐらるる命と昔母のびよ〜〜ぞあまふ

梅子傀儡と〜〜遊女の〜〜

今 幕下四月十七日侍る花下ハナノキの発句とまじは

非君侍治世の時天也三郎と書居原系うえ〜〜つゝ女
或〜四月廿日の夜とあま

豊さる都の花はち〜〜つはのねと世と公るよる

捨〜あま世と治と〜〜れなあ〜〜あかられあま

志と〜世と捨〜あま思ふ〜〜決〜〜あ〜〜あ〜

憂窓曲作

物志とむ〜まやあまけしたる夜もあけ〜〜

中院庵老存の書とよみ〜〜あや

懐石事談一言大ゆ〜〜このはあ〜〜て返寄

めり〜〜次呂以奇と満屋詠〜〜元禎真が菊侍

居易和七次め〜〜感〜〜い〜〜い〜詠吟

〜〜つと云々

寂 寂 寐蓮法師

。三々

〜〜い〜〜い〜〜あ〜〜り〜〜り山の秋の夕言

懐中一納云定家

み海は夜も紅葉をたぐりたり海の上^上の秋の夕暮

西行法師

わが心ももはれまゝとてくもりの秋の夕暮

まよひや下野うらむるもひひる人 清少納言

思ひつれからぬものもよもふたどりのこといほげ

そは涙をほの場をふさばいりて下野國ありと能因法師

師の押元録に出るまじし 神中抄にあり

太田持資入るる灌上京の時勅答の歌

中納言の方も有たり夕まの空より知るさ武蔵守を原

く後——の威威ありて清製を下これたる

武蔵守いさよのこゝ思ひ——にわらふよの夜をさ説^説

都きの身のませはへてけし奇人志ごと稀^稀

朽葉海草

朽葉 まがきみ行ふおりのおきまのむ村にんむたり

那き月の比ねみ行くとらりて武蔵守と通^通

ゆらまはる中へに富まのりとさうくぬ^ぬさあてんて

はせび

浮城がふよにけりる武蔵守や尾花がよくの富士はら

葉裏新造 神邊寺の時よそまらやま

そちつて清代のもえのまねてる日のまらぬまらぬ

右三首

源光及公御歌也

• 天正三年正月十七日の夜天也康宗の妻同坐度着息の
 歎とえししそなるの如落やしし廿の佛壇の後の如
 息奇ししける者もとてをて一抄 作世を
 うふしを正月の如の祭りしを佛堂奇あり
 息ある都の花の散りしをあつまの如を世とにる
 但三州福に以奇の曇を三月二十日の夜は月よを米
 津 津法其の書する人もありしを三月の如を世とに
 つまもとししけり康宗の妻は如の祭りとを思ありしと申
 ちししと白ハスレ侍下後

• 奇道真灌頂曰和奇五句、則五智^云、見倭奇六儀次第

父の^ホ女^ボれと^{アホミ}赤子の^{ウラハ}裏の如^{フク}露^フ | 湯^ユが^カり^ケれ^ル母^ノ | 思^{ハシ}ふ

如の^カぎ^ト | 東方薬師如来 住吉 玉津 | 祭心大丹鏡智生

如石^{イシ}其^ノ浦^ノ | 南方宝生佛 春日 松尾 | 修行平等性智老

如隠^{カケ}行^ト | 北方釈迦佛 涅槃成所作智病

如^カ奇^ト | 西方阿弥陀佛 八幡大菩薩
天照大御 | 菩提妙观察智死

如^カ母^ノ思^ハ | 中央大日如来 | 法界解性智 若

中世奇人者跡浮屠にまはしりし如る嘉延と率附を秘訣
 として傳授し又六儀は天竺より唐へ傳へ又より我國の

道慈律師傳授しあり倭奇の六儀とすもと何とす

あまの妖妻といへる口惜し玉葉集十八番参議相の歌母
これのそぞ人の國よりほろりてお代と受けお導のた
かくぞあまのほ

中院通茂 氷室れ歌

老の才れ中々ふとて人としきこれ月かげてこぬ
あまのほの時ぞとくまらむとていまもまもる麻のさな

西三條家の御歌とあんなけうと三復一侍るバ
古今の姿と知り時よ處一そあやよりあうらん歌

石田三成出乱の時細川幽承古へも今もかりぬの奇の時
正争物府下 東條文藏の家藏よ納てあり

文盲者考合はるあまのほ何ごん程あらうときい笑
事にあまのほとて時例かしく讀く申あまのほ

寛永八子清水親善堂年一刻の半焼侍ル京の者考
よるあまのほ喜び親善といふべきま室のたひはたうん見え

あんとん福も魁とてあまのほ侍の子と百姓れ子とよあま

あまのほとて花と一枝おりのちてまもるやと破れ
宝箱

侍下りていさざりてさつてわきかへぬりぬきを敵をばふ
百姓子ていさざりてさつていさざりて腹をりて
・神楽苑のきりかきとて神楽原は戸へ下り神楽と云ふ
さうれとていさざりていさざりていさざりていさざりて

中着のいさざりていさざりていさざりていさざりていさざりて
江戸の神楽原いさざりていさざりていさざりていさざりて
中着といさざりていさざりていさざりていさざりていさざりて

はいさざりていさざりていさざりていさざりていさざりて
・中着深中深雪深山の類こと
わきざりていさざりていさざりていさざりていさざりて

いいさざりていさざりていさざりていさざりていさざりて
いさざりていさざりていさざりていさざりていさざりて
見惑易断如破石 思惑難断如藕絲

昔の中といさざりていさざりていさざりていさざりていさざりて
今を知らぬのいさざりていさざりていさざりていさざりて

華好法師

西いさざりていさざりていさざりていさざりていさざりて

一いさざりていさざりていさざりていさざりていさざりて
いさざりていさざりていさざりていさざりていさざりて
いさざりていさざりていさざりていさざりていさざりて

貞享三年の秋勢田平造習辻家の御下御成御成

後二位前権大納言亮玄之

平の信吉の時を以て平山と呼ぶなりといふに其濃のいふ
平の信吉の時を以て平山と呼ぶなりといふに其濃のいふ
平の信吉の時を以て平山と呼ぶなりといふに其濃のいふ
平の信吉の時を以て平山と呼ぶなりといふに其濃のいふ

元龜三年の比 鹿下の兵士多く冒母唐の如く

元龜三年の比 鹿下の兵士多く冒母唐の如く
鹿下の兵士多く冒母唐の如く

幼児の如く 徳義あり

其子健母の如くたるにみづかたがき土溜の如く腹
の子健母の如くたるにみづかたがき土溜の如く腹
の子健母の如くたるにみづかたがき土溜の如く腹

賤史の如く

平の信吉の時を以て平山と呼ぶなりといふに其濃のいふ

是は後編の序文に依りて傳へられたる事ありて、
あはれのつゆの童子の地より、
そと出て、
とていふものこと、

● 別注の考

差卷の九代おに日み月、
枕にきてちぎり、

別注に云はば、

さて一々おれをり、
時人とおひの、
あやうの、
つひたか、

真の御を、
まじりの、
院も、
扱は、
んは、
あり

信景云、
まじりの、
院に、

めにをく、

源氏若菜の巻

○霜のなみと越ぐんとどりと思ふはなほはの山を
我と君 誠云 うつの上とふんさるも時あがしはなほ
こそあひらるるこや

○袋双紙ぬま申さて寝ぬる時のし

○志や出まらばや去るや家床を移しこと移ぬを移し 移

○あはれもや百といふおぬをとおて天下とおそあはれ死
秀吉の奇とそ人のものとえい——真女とてこい
ま葉とひひ上下の白たぐひて欲深きこほけ奇とあ
いし侍れ 信景随筆

捨遺和奇集は 業平

○いはれ——築摩の奈とやせよんつはあ人の溜の巻とん

○玄賓傳都の奇よ

○山田のるるうづのちこそあはれ——秋こそあはれいよあふ
とこよとえい玄賓の奇とやうづと呼—— あはれなり
此僧都の奇めとあはれく——いづれ

吉川惟足

○家とんれ歌とんれ境めとる——まづと神のるるれ
む——金やおづらの中とぬえあそひあ—— なと又と
これぬれ

去せ七るく所抄残るる二百お届合被え公世上事傳石意
く（反）中使く事旧く信長代木園極満時
似合の被忠帝を年以意く事く手對秀永極心
何て被誅略の以度越中、墨本お陳の使用有世石由海存
又く番是又事と事加番あ少及是北の一事のく前長
小事成傳使帝御音院案因有お海下く別有。お傳く
若院明成方一首

古く今くわりの世のわにわのさひどのさうくの兼
以短冊并海成抄第一二代集 兼裏様ハ違上下いあ
知事成入事成の第一二上くるをニ被抄事 世く信長のみよ
前事ハ有卷角部ナハきく包力目ハハ海多ハは奉り元ハ

以通は信長とて終ははあふくは信長と
八月二日 出典 書目

東條純伊事成

信景云は状ハ古く傳授の時東條純伊古長へ五位法
十事有 細川事ハ補 源本孝 おくはし一書あり今我曰僚東條
兼豊の方ニあり

古今傳授

- | | | | | | | |
|----|--------|------|-----|----|----|----|
| 定孝 | 為家 | 為氏 | 為世 | 光阿 | 経賢 | 竟尋 |
| 竟惠 | 竟孝 | 常縁 | 宗祇 | 實隆 | 公條 | 實澄 |
| 玄名 | 知仁親王八条 | 後水尾院 | 大上皇 | | | |

通勝 中院
光廣 烏丸

又兼孝より先憲信都に傳へト一傳宗紙より宗孝及ト
牡丹花の傳へ——二流祇園院公傳と九條植通とと結むと
傳へられ——とある

○先ある傳傳受の時よまやあひらるる傳方

わりのひきやあつさめ——菟野の妙あつさめと傳へ——とい

○椿本人丸平城天皇の時時よまのつげめよりて天國三年

七月十三日一人丸のミタビとをばはゆ作し傳に崇むとて延喜二の

七月あるに一人丸の君と代々大内竹のつがにあぐむ今の

内への祠をことと云

秘奇

あれ、雲ちりし海にやとて心ゆかき舟山の花のさうりい

右兼孝清のうけり玉傳深秘卷

傳傳にえゆ

○三宅長辨れ二卷アリ狂奇怪異載之を二二ツ記スき母

きまをほの片岡田の伝人々中坐原監物に仕り俗名三喜

高

○監物殉死存奉多豊存ち不有之而存應ラ取り尾張に

尾豊存ち梅治ゆら尾侯に石出

○言大納言云友聖人産とつゆりし金竹と七折せぬ作が

右の内伏義と甚高と二折せぬ——と正月百二傳前へ

上ル時

○一ツの年の始母ゆつきとて眞母かあふあふ母ゆら

伊勢とそ女梅のゆら幸文とる山田お忌——東大向あり

清原母達とそ夜夜のえんめゆら流れくさる互強降止しと

と一首ゆらゆらりとも

一宵をいぢりと思ひ〜天の岩をわらねやとぬれ
月面をた来濱邊へ出て寝た

面白くも月をまて浪の免や磯まらん登れ

小舟、少早におりる松風と云琴と尾張大納言後よりりる。

以琴而く換じたる石共母、お作付りる刻換じる所と

あ〜〜とわらるとそ

〜〜とそやあ〜〜の細くもそ〜とわらねぬ

肥田孫万と中仁と尾張大納言後侍前よりりるとそ上

は〜孫万のわらぬけりきい

出立とわらぬと書りきと孫万のわらぬけりきい

大納言後侍前と云こめ向てきりひ自極もや唐二ハ

孔子は本ていぢり〜やといひぬ斗と云三白と送感〜是ラ

誥に共母か孔子の子と鯉魚と云正三の子と名に鯉〜

相見院殿る百は女中の内共母と云い思ひ人共母

見るとよきりれ

七娘のいぢり〜〜のまききと上ろ〜のあぢぢぢ

真山大膳向に大津に在る住ス或は小若君〜と云云

小庵人とのとる〜七娘けり〜い〜い〜い

真山大膳人とのい〜い〜やと〜い〜い

尾張の玉やまとしんまのよ一帯のりか〜^作伝説いおの
里よいと〜うら〜き若氣有れり酒あどたうべそ
そのり〜た起^{ツキ}マウきりきり

梓弓やあゝの里人一帯〜おりひまうら〜横^横空の空

仁わち傍正海天文三年のあづまの道の記み出

● 故鎌倉右大お家の時お狐ノ夜ニ走りケルシ

シラケテ見ユル昼狐カナトノ給テ梶原付ヨト仰ケレハ

チキリアアラバ夜ルコソコウト云ベキニ 沙石集下同

○ 同時京ヨリアヤメト云ハシタモノ、義人ナリケルシ百下
カクシラカレタリケルシ梶原ノ子、傍尉不々ノミタリケレバ
同^シ齡ノ十七ハバカリナル女房義女ノミモシラヌシ十人
装束サセテナラベスヘシキテ此中ニアヤメシ見シリタラバ
可給ト作ラレケレバ見ワキガタクテ

薦^{ニシモク}草アサカノヌニ茂リアヒテイツレアヤメトヒキツワツラフ

トイヒタリケルキアヤメカホシアカメテ袖^シヒキツクロヒケル

シ見ニアレコソト申テヤカテ給リケリ
○延喜ノ帝崩シ地獄ニ墮シ玉フト云々冥途ニハ貴賤ヲ
不_レ論ト云、高岳ノ親王此心ヲ讀玉ヘルニヤ
イフナラク奈落ノ底ニ入ヌバ刹利モ首_ニ陀_トモ替_ラサリケリ

○大閻ノ前ハ細川吉房父子出ラレケレバ大閻忽云 細川
ニツヨウと出多_ク 吉房九_ノ人_ノ也_ト 亦_モ車_ノ通_リ 雨降_リて

○最_モ院_ノ扱_ハ化_ノ界_ノ時_ニ 大納_之扱_ハ追_ハ追_ハ

世_ト思_ハ夫_レ夫_レ也_ト 五月_ノ日_ニ 而_{シテ}彼_ノ婦_リ 天_ノ下_ニ 凡_ソ世_ノの_レ喜_シ也_ト 知_ルカ_ト 思_フカ_ト 鄭_ノ云_フ 乃_ハ空_ニ 逢_ハ坂_ノ 逢_ハ坂_ノ 逢_ハ坂_ノ

○西_ノ德_三己_年 系_統不_司代_格 平_記伊_守東_武ハ_り 時_ニ 逢_ハ坂_ノ 逢_ハ坂_ノ 逢_ハ坂_ノ

知_ル知_ルぬ_ルも_も傳_ハへ_テ古_ノ名_を今_もも_も逢_ハ坂_ノ 逢_ハ坂_ノ 逢_ハ坂_ノ

鏡山

くしる昔と今の鏡山梅は世は安とるんじ

小坂中山

東路より来て幾とを命とてとくを越り小坂の中山

富士

月夜に三の浦のくもあつたひもりの雲に富士根

海士の汐返りといとんそ

世とばる業いづくそいと海を汐返海士も汐返ぬぞと

いとせちそ^色あはらうる^雲の^衣の^衣と^入て^をか

古とく^多の^松の^早

或人南方の様子と語りきれ道

く^来とい^ひて^たら^いひ^いと^や白^髪の^是と^南方^ぬと^世界^のか

俊^ゆの^書の^果 ^墓 母^はは^とて

稀^めけ^れ来^ます^とこ^に ^さ松^の風^を ^たえ^きや^若の^下 ^すん

戯^ぎ為

王秋江

多言謾語他人耳 行夏元非往聖書

可惜参乎多一唯 不如回也只不愿

敬

惟足

何^いと^人の^乃福^と ^れが^葉の^花 ^はく^とに^て ^はく

吉^きの^乃ハ^急が ^のと^き ^あん ^のと^か ^を

福^の ^行世^の ^の ^を ^た ^ま ^す ^は ^な ^り ^し

くやうしんそく

板倉口楳

新西の年ものいそぎを嘆息の名のこぼれはなほ

石田浩アが情三が没落の時

大恒の陣のころを思ひ出さるるあはれものあり

ゆきやれりまの材のまつまつをぢめてはあはれものあり

くはまりの石田一人を思ひ出さるるあはれものあり

聚樂所宮の時を思ひ出さるるあはれものあり

山善寺の掃除のころを思ひ出さるるあはれものあり

秀吉公御前を井也系統とくものまつまつをぢめてはあはれものあり

けいけい五つを思ひ出さるるあはれものあり

大猷院様御詠

世中のあはれものいそぎを思ひ出さるるあはれものあり

人おほいなるあはれものいそぎを思ひ出さるるあはれものあり

いそぎは

鏡よあはれものいそぎを思ひ出さるるあはれものあり

客綱の寺夜瘡 明曆三 丙午年 御平愈のお御侍 酒大 御湯

奇なりめと作あはれもの 半井卜養

天下たいをいゆるあはれものを思ひ出さるるあはれものあり

大恒洲の新定

大恒はたはの所寄のおはれもの千代万代を思ひ出さるるあはれものあり

大恒とくもの繪

大恒とくもの山道のくはれおはれものを思ひ出さるるあはれものあり

あやとらふさかえ^{テテ}併し思好麻とけ出^{カシヤクニモイ}しつよあひ

思好麻のうけて出たる併あまら^{カシヤクニモイ}く^{カシヤクニモイ}にあり

石出^{石出}半井ト養舎^{ト養}に打^{ト養}込^{ト養}は^{ト養}は^{ト養}は^{ト養}は^{ト養}

益^{半井}あ^{ト養}わ^{ト養}り^{ト養}け^{ト養}て^{ト養}待^{ト養}り^{ト養}入^{ト養}東^{ト養}山^{ト養}あ^{ト養}ら^{ト養}う^{ト養}と^{ト養}う^{ト養}ひ^{ト養}や^{ト養}え^{ト養}

運^{ト養}

は^{ト養}との^{ト養}む^{ト養}石^{ト養}を^{ト養}と^{ト養}あ^{ト養}ら^{ト養}の^{ト養}ま^{ト養}や^{ト養}入^{ト養}ら^{ト養}ず^{ト養}と^{ト養}い^{ト養}ふ^{ト養}と^{ト養}の^{ト養}

彼^{ト養}帯^{ト養}刀^{ト養}に^{ト養}武^{ト養}後^{ト養}の^{ト養}獄^{ト養}を^{ト養}と^{ト養}司^{ト養}ら^{ト養}う^{ト養}ら^{ト養}ず^{ト養}者^{ト養}あ^{ト養}り^{ト養}け^{ト養}り^{ト養}そ^{ト養}ん

智^{ト養}恵^{ト養}し^{ト養}こ^{ト養}く^{ト養}也^{ト養}藤^{ト養}も^{ト養}止^{ト養}倚^{ト養}り^{ト養}ぢ^{ト養}れ^{ト養}た^{ト養}母^{ト養}甚^{ト養}能^{ト養}あ^{ト養}り^{ト養}

或^{ト養}時^{ト養}の^{ト養}奇^{ト養}ア^{ト養}

「^{吾宿丹イ}」^{カケ}た^{カケ}ら^{カケ}ぬ^{カケ}え^{カケ}と^{カケ}い^{カケ}う^{カケ}れ^{カケ}〜^{カケ}案^{カケ}の^{カケ}戸^{カケ}は^{カケ}月^{カケ}も^{カケ}あ^{カケ}ら^{カケ}り^{カケ}花^{カケ}も

短^{カケ}急^{カケ}不^{カケ}成^{カケ}功^{カケ} 阿蘇宮神主

い^{カケ}そ^{カケ}く^{カケ}そ^{カケ}い^{カケ}ぬ^{カケ}れ^{カケ}は^{カケ}〜^{カケ}と^{カケ}旅^{カケ}人^{カケ}の^{カケ}話^{カケ}も^{カケ}そ^{カケ}も^{カケ}や^{カケ}路^{カケ}の^{カケ}村^{カケ}を

茶^{カケ}原^{カケ} 吾^{カケ}田^{カケ}友^{カケ}へ^{カケ}た^{カケ}じ^{カケ}〜^{カケ}ま^{カケ}あ^{カケ}ら^{カケ}り^{カケ}と^{カケ}も^{カケ}對^{カケ}面^{カケ}に^{カケ}あ^{カケ}ら^{カケ}り

は^{カケ}れ^{カケ}い^{カケ}ま^{カケ}ら^{カケ}て^{カケ}あ^{カケ}り^{カケ}け^{カケ}り^{カケ} 吉川惟足

神^{カケ}の^{カケ}名^{カケ}を^{カケ}え^{カケ}ぞ^{カケ}う^{カケ}り^{カケ}に^{カケ}ら^{カケ}れ^{カケ}い^{カケ}ぢ^{カケ}り^{カケ}あ^{カケ}や^{カケ}〜^{カケ}と^{カケ}何^{カケ}れ^{カケ}も^{カケ}あ^{カケ}ら^{カケ}ん

大^{カケ}獻^{カケ}院^{カケ}板^{カケ}に^{カケ}た^{カケ}り^{カケ}九^{カケ}百^{カケ}母^{カケ}菊^{カケ}と^{カケ}ま^{カケ}り^{カケ}け^{カケ}り^{カケ}と^{カケ}も^{カケ}心^{カケ}田^{カケ}函^{カケ}母

捨^{カケ}り^{カケ}の^{カケ}あ^{カケ}ら^{カケ}〜^{カケ}と^{カケ}白^{カケ}菊^{カケ}の^{カケ}む^{カケ}〜^{カケ}と^{カケ}あ^{カケ}ら^{カケ}の^{カケ}ま^{カケ}に^{カケ}包^{カケ}け^{カケ}り

大^{カケ}樹^{カケ}師

そ^{カケ}の^{カケ}あ^{カケ}ら^{カケ}〜^{カケ}と^{カケ}君^{カケ}の^{カケ}あ^{カケ}ら^{カケ}の^{カケ}時^{カケ}は^{カケ}逢^{カケ}て^{カケ}は^{カケ}〜^{カケ}と^{カケ}笑^{カケ}う^{カケ}〜^{カケ}と^{カケ}庭^{カケ}を^{カケ}あ^{カケ}ら^{カケ}〜

は^{カケ}返^{カケ}奇^{カケ}も^{カケ}れ^{カケ}と^{カケ} 作者は^{カケ}〜^{カケ}

鼓の音のほろろとあはれにうらやまのたけなき家の由とさうりん

梅の花よりよきまを暗に山園を越えてとさくそめられ

○仲弓孔子子路宰我子夏と一斉の内づめれ

石名井雅章

かまらふらふらとあはれにうらやまのたけなき家の由とさうりん

○富士とさうりん 卜巻

あも白のまらふらふらとあはれにうらやまのたけなき家の由とさうりん

或る石の彫刻の点と丸の塚のト巻

つれづれ

てんとうにあはれにうらやまのたけなき家の由とさうりん

○鼓の音のほろろとあはれにうらやまのたけなき家の由とさうりん

けいけいとうらやまのたけなき家の由とさうりん

返

この鼓たんとあはれにうらやまのたけなき家の由とさうりん

● 花見に梅よりて花事開きの下はほのろき

花さうり下もよきも春絶て開ぬらん

● 或方よりり善材と送る

信女送る梅さるまきさ言葉の程とあはれ

五

うらけこれこそあはれはを御あやらさる

● さいの月よりり

女あはれさきの月やあはれは

● 希右とよふ甲籍のよはうあはれ

真のまはれと

揚き妃の対あはれりり

● 二心義直公人心惟危と

● 及そくに清き流ありと

所重ありり馬丸殿の魚刺

● 及そくに清き流あるとも

○ 馬丸先度には有馬へ湯治のことと

とあとのあはれりり

掛物鷹の飾りけし

● うはれは梅と同

梅も梅のことや

あやう

● 板木田

おろくハヤラセウニツ文字牛の角のくまり

寺返

魚の名のそれ母のびるたのまが二ツ文字牛の角文字
まがまが水井信濃さ反にけくまるとま

。長嘯。まのまが

。長嘯

まがまが文のまがまがまがまがまがまがまが
。首のまがまがまがまがまがまがまがまが

たのまがまがまがまがまがまがまがまがまが

。西の録病のまがまがまがまがまがまがまが

。まがまがまがまがまがまがまがまがまが

牛未申酉戌まがまがまがまがまがまがまが

。まがまがまがまが

まがまがまがまがまがまがまがまがまが

。撰取者馬阿弥陀堂

。撰取者馬阿弥陀堂

堂のまがまがまがまがまがまがまがまがまが

まがまがまがまがまがまがまがまがまが

。撰取の勅書と馬丸光廣は

今まがまがまがまがまがまがまがまがまが

。撰取の勅書

。撰取の勅書

まがまがまがまがまがまがまがまがまが
。撰取のまがまがまがまがまがまがまがまが

のたのて母よりわれとつてあふく後法師の
ゆふをわれと

面白書写山枯松雪 といひられとくとも
めりつらひろひよんくんを

あつらふやむれまりの雪
。白氏文集偶吟詩

眼下有衣兼有食 心中无喜亦无憂
正如身後有河夏 應向人間无所求
静念道経深閑目 閑迎禅客小低頭
猶残少許雲泉興 一歳竜門数度遊

。六々山人退隱の付 石川丈三

りて〜れ等のや川の流くも老の波をさねもそり
葉のそとなくともう向人ありあ〜浮世は後へり
。老西に故郷を次訪隠者に給馬

假令容膝休 天庵一草菴 使寛

唐まじり裁〜そあきとほむれり
世に〜さうまのさうまも〜さうりりこのれ

。馬丸光庵に
人の武士に紳紅花を菊さびり〜り山陰の系

人の武士に橋魚と鯛と油紅梅花を〜り
。板倉内膳正太郎時代をりる老中〜り〜り

ち後よりいふゆへうへありて今のもとあらざらんや

○も養法眼の叙や〜れ々々時

有難 ぬけ業事の人たんとりの眼とあそむにふり

○まきは〜と掉く 長請

のひら〜とあまの煙のち〜も目〜をのちま〜

○貞徳と掉く 志ふや

ほろ〜あつ〜のちと〜のまのち〜ら〜

○文山退隱の詩 け時路の少の奇と詠と

人世活計在安身 富貴功名惣幻塵

平生用、来、三尺劔 元端拗折、為書鎮

○字紙山中と遊〜耐虚空〜声〜

あけ〜〜れい〜〜〜ら〜れ 宗祇〜〜

由〜お〜け〜の庵の海霧の繪と 〜と〜して

来〜ら〜〜庭のふねと雪降〜 植也〜た〜

〜〜〜ひ〜〜と〜と〜と〜

○恒別大寺に暮宗直の言西行法師。影く〜夜の

〜〜〜〜〜〜〜〜〜の奇とあね も〜

影〜い〜ち〜ち〜の〜い〜〜〜〜

○もさ〜〜あ〜の影と〜〜

ふらふら〜あ〜あ〜の影と〜〜

ふ

。 浄法寺

。 浄法寺の御願に依りて

あまの御言に依りて

平の御言に依りて

浄法寺の御願に依りて

新院御願 月浄の御言に依りて

。 浄法寺の御願に依りて

。 浄法寺の御願に依りて

。 浄法寺の御願に依りて

。 浄法寺の御願に依りて

。 浄法寺の御願に依りて

。 浄法寺の御願に依りて

。 浄法寺の御願に依りて

。 浄法寺の御願に依りて

。 浄法寺の御願に依りて

。 浄法寺の御願に依りて

。 浄法寺の御願に依りて

。 浄法寺の御願に依りて

。 浄法寺の御願に依りて

。 浄法寺の御願に依りて

。 浄法寺の御願に依りて

。 辞世 八十八

石川丈山

中年抱_レ道徳_ヲ茅衡_ニ
体認_ス乾坤_ヲ存_シ動靜_ニ
鴈過_シ寒水_ニ无_ク留_ル影_ヲ
老病依_テ何_ノ久_ク居_ル此_ニ

温結_ス藜_ニ羨_ム逸_ス性情_ヲ
魂交_シ造化_ニ俱_ニ泳行_ス
風拂_ク岩_ニ松_ノ不_レ遺_ル声_ヲ
倒乘_リ鵬_ノ背_ニ遊_ビ蓬瀛_ニ

● 貞浄法皇

啓_ノ上_ニた_リ目_ヲほ_ク横_ニゆ_ク芦_ノま_の蟹_ノ長_クる_ル世_ニや

● 古_ノ舟_ノり

世_ノ中_ニし_テ千_ニ浮_ル舟_ノり_ニ 影_ノの_{心_ノ}横_ニゆ_クこ_ノそ_ノる_ル舟_ノり

○ 舟_ノ子_ニに_密柑_と香_仁と_豆大豆_と出_ルん_ル舟_ノり
魁_ノの_{心_ノ}絶_スる_ル舟_ノり_と香_仁と_豆大豆_と出_ルん_ル舟_ノり
○ 或_ノ人_ノの_{心_ノ}絶_スる_ル舟_ノり_と香_仁と_豆大豆_と出_ルん_ル舟_ノり

い_ち舟_ノり_をこ_ノる_ル舟_ノり_にあ_らう_こら_うい_ち舟_ノり_のよ_うな_らう_とん

き_んん_んく_やり_らに_又の_年ん_んん_ん 達_行り_かれ_は佳_例

の_十横_専ら_ぬ舟_ノり_と香_仁と_豆大豆_と出_ルん_ル舟_ノり

ぬ_れぬ_れこ_ノら_ぬ舟_ノり_と香_仁と_豆大豆_と出_ルん_ル舟_ノり

○ 幽_妙舟_ノり_{下_ニ}あ_らう_こら_うい_ち舟_ノり_の舟_ノり_と香_仁と_豆大豆_と出_ルん_ル舟_ノり

か_らい

舟_ノり_の舟_ノり_と香_仁と_豆大豆_と出_ルん_ル舟_ノり

○ 紀_綱舟_ノり_{中_ニ}あ_らう_こら_うい_ち舟_ノり_の舟_ノり_と香_仁と_豆大豆_と出_ルん_ル舟_ノり

を_んん_んあ_らう_こら_うい_ち舟_ノり_の舟_ノり_と香_仁と_豆大豆_と出_ルん_ル舟_ノり

○ 達_行

悟_字院

お_のい_ち舟_ノり_と香_仁と_豆大豆_と出_ルん_ル舟_ノり

きくと 仙洞内後有をいふ慶王の西洞

海にひろのびのびのうらやうとあはれ海まはれたるの

ほらひろこれと東らうの字後

。春好ゆかた人の登り

目とらうして甲斐あり秋の月

。まの娘もあつちの登り

いふもやあつちの捧一文字

障りも一鐵そののほらあつち

大ゆかたさうけく 着いん登

側を人あつちの登り

いふもやあつちの登り

二人のいふもやあつちの登り

伊勢やあつちの登り

伊勢の登り

富士と登り

雲の幸のこのあつちの登り

いふもやあつちの登り

真貴 漢人道吳人設筆向何物日竹也飯

其床貴不藝日吳人輾輾欺我如此

芦葉の蓮

八幡堂

たいさやうの風さいもゆりにあはるるあはるるあはるる
あはるるあはるるあはるるあはるるあはるるあはるる
あはるるあはるるあはるるあはるるあはるるあはるる

あはるるあはるるあはるるあはるるあはるるあはるる

あはるるあはるるあはるるあはるるあはるるあはるる

あはるるあはるるあはるるあはるるあはるるあはるる

あはるるあはるるあはるるあはるるあはるるあはるる

あはるるあはるるあはるるあはるるあはるるあはるる

又一一

あはるるあはるるあはるるあはるるあはるるあはるる

あはるるあはるるあはるるあはるるあはるるあはるる

あはるるあはるるあはるるあはるるあはるるあはるる

延陀丸 奉白 ちんや海 ちんや海 ちんや海 ちんや海 ちんや海

ちんや海 ちんや海 ちんや海 ちんや海 ちんや海 ちんや海

海 海 海 海 海 海 海 海 海 海 海 海

ちんや海 ちんや海 ちんや海 ちんや海 ちんや海 ちんや海

ちんや海 ちんや海 ちんや海 ちんや海 ちんや海 ちんや海

ちんや海 ちんや海 ちんや海 ちんや海 ちんや海 ちんや海

竹生 都良書

園説 江湖 勢似浮

倚松 捕来 猛虎 頭

緑樹 影沉 魚上 浪

靈蹤 高聳 无今 舟

不断 袖風 濟渡 舟

東福門院由は昭明神入は本納のへんごの浄孫
まへへりてはから成りては成りては名へりては
まへへりては成りては名へりては
まへへりては成りては名へりては

○上りの口 大坂字因

○三三三の口 大坂字因

○三三三の口 大坂字因

○三三三の口 大坂字因

○三三三の口 大坂字因

○三三三の口 大坂字因

○三三三の口 大坂字因

たる孫のまへへりては成りては名へりては

右三条 大坂院様は五右衛門の口へりては

あまの川流のまへへりては

○大坂字因

○三三三の口 大坂字因

○三三三の口 大坂字因

ト巻

本道もあへりては成りては名へりては

○大坂字因

○三三三の口 大坂字因

○大坂字因

道之以政齊之以刑民免而无恥

とて又たそなひてくれそおとらふの君もあはれきり
道之以徳斉之以禮有恥且格

あるよのるの道なる者、代もえきとあはれきり
中秋の月とてなほにふえとてなほ

おとす風の雲と中忌の月のまの田と結ばる
●昔意西原の風とせとてくれはる君も民持とて
彼居よけしと種のとてなほなほとてなほ

海のとてなほのいふたあはれきり

道

意

世のいふとてなほとてなほのいふとてなほとてなほ

系此集秀奇百人首

存水尾院法製

天ははる舞あまの思月シメツキのしとてなほのいふとてなほ

なほ園院上臈

世のいふとてなほのいふとてなほのいふとてなほ

稱名院入る前右大臣

花のうらみもさうなほおもひのこころに
あはれみはるかに
流

清遠院前内大臣

花のうらみもさうなほおもひのこころに
あはれみはるかに

三光院前内大臣

花のうらみもさうなほおもひのこころに
あはれみはるかに

中納言雅康

花のうらみもさうなほおもひのこころに
あはれみはるかに

前冬後海健

花のうらみもさうなほおもひのこころに
あはれみはるかに

江原法師

花のうらみもさうなほおもひのこころに
あはれみはるかに
あはれ

祇心官女

春風は水の秋を解さるるも
あはれみはるかに
鱗

板津不守一

法のいふはあはれおのれは

後大納言

散はまゝに花もついでに

信正信玄

まゝに花もついでに

后柏原院

あはれに花もついでに

后大后秀忠

異作の美世と花もついでに

良純親王

事と成るを行すは野邊

尾張中納言光茂

うゑの美世と花の名は

お平伊子守綱政
しよふん(心)きぬく我ちくくれ今日と忘るはあは

柳原或ア大輔房

世のあいのものいもあへる富士の根のきこられくく定本
はくま

白菅内侍

あまのこころのこころいもあへる富士の根のきこられくく定本
はくま

邦言歌五

らあぬよの思ひをいもあへる富士の根のきこられくく定本
はくま

元政法師

朽藤くち茂おと人へのあはれをいもあへる富士の根のきこられくく定本
はくま

本多丹波守重世

年と経く影をいもあへる富士の根のきこられくく定本
はくま

中長信濃守頼敏

梅の枝へまゝのよりの雪の聲にさるる心かな

か越能少光作

七の海を浦山へけりてさうぢはゆふのうらみのうら

右大臣兼近

限のあまの代は舞ひも千もやな盛つたの巻の巻

良忠法師

誰の心かへりてさるる心かな浮舟の舟の舟

廣徳大納言兼受

春をへりて縁と津の比水千草ゆきき青柳の陰

右平對る眼重

百夜よりの心かな

井上白鳥

あまの心かな

よきみ

中出大和守古莫

たゆまぬ侍りて文月のくまのあまのゆへ

内宿大系元義概

あまのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろ

中河佐渡若久恒

潔くもあまのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろ

山名と殿取短豊

みそこゝろのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろ

あま重慶

今もこゝろのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろ

山名年人克豊

秋の月もあまのこゝろのこゝろのこゝろ

小堀を江古字改一甫

山里の山名もあまのこゝろのこゝろのこゝろ

飯沼因幡守忠治

志のちよと二声の郎さよー山の治中月をいへ

市輝官女

浦人の塩を神も朽めよと磯の官屋の五月見るの比

松大納言雅親

はるのこゝろあはれむかひの心 独るの園の求ぬあき

大森信濃守正安

みづのうらやまのさくらさきさき 曉の声

由出備前守真安

春ふくしむる花のおもひめく 春あはれぬと郎のあきさ

蜂は空の峰を光隆

於藤川八十流又流く行水の流もさや 五月見るの比

於法橋中納言公留

思ひねの海に舟を渡すの海の家を成すなり

松中 納言 宗吉

野坂ひろきを神もぬき(衣夕巻)の海

号 純法親王

中 伊達陸奥守 宗吉

伊達陸奥守 宗吉

中 伊達陸奥守 宗吉

他 了法師

中 伊達陸奥守 宗吉

田村右京守 宗吉

中 伊達陸奥守 宗吉

吉河 宗吉

中 伊達陸奥守 宗吉

小出真直

一ともの行なりとも程りみの日の暮るやと燈を思ふ命のき

浅井備前守政

くゆふ文書いしほむむと里よどく一と夜の宿あへん

本多正昭

お徳の才女おききえんまふひそと知りても徳のりきいふに

毛利玄橋母

浅き一れ老女と昔と人とおもひ今のふかきあはれ

細川行孝母

いほのろふ庭の萩原声たてくふくもあむむ秋のおぬ

尾丸大納言源貞受

おききの浦のさかへり一とまき若田落のたみ道_下迷ひはれ

源光通の室女

思ふまじき建物のなほはつたまきおききのほろひ

おき

独活のあひひ海のちを想ひ昔のうらもほいさの
神の

中院大納言通房

ふらしむる中々郊外を或夜もよみおのりた

三樂新宮女

ふらしむる中々郊外を或夜もよみおのりた

公海法師

ふらしむる中々郊外を或夜もよみおのりた

松平大膳美息女

ふらしむる中々郊外を或夜もよみおのりた

左京良院

ふらしむる中々郊外を或夜もよみおのりた

正徹法師

ふらしむる中々郊外を或夜もよみおのりた

陽山法師

信じていふは心も身も教華と見えたる人の子の心

日也天狗之秘法

うゝか狩るの鳥も捕らぬ鳥の心もたゞて候鳥の別

戸田茂膳息輔女

華一抱えいふは心も身も秋の葉の如くぬるるの如雪

侍從中納言通緒

そへ梅の葉の心も身も春の風とてそへ梅の葉の心

伯三位雅喬王

そへ梅の葉の心も身も今も昔も春の風とてそへ梅の葉の心

從三位實直

そへ梅の葉の心も身も今も昔も春の風とてそへ梅の葉の心

二海軍白六政大臣康道

そへ梅の葉の心も身も今も昔も春の風とてそへ梅の葉の心

なまのいふおきんくも物事れいらく月の中あつては
なまのいふおきんくも物事れいらく月の中あつては

なまのいふおきんく

海老野はさき

華の根をいふおきんくも物事れいらく月の中あつては

花の根をいふおきんく

みんかしのいふおきんくも物事れいらく月の中あつては

みんかしのいふおきんく

遠くへのいふおきんくも物事れいらく月の中あつては

遠くへのいふおきんく

わの葉れいふおきんくも物事れいらく月の中あつては

わの葉れいふおきんく

福袋のいふおきんくも物事れいらく月の中あつては

福袋のいふおきんく

あなたと浮世のいふおきんくも物事れいらく月の中あつては

あなたと浮世のいふおきんく

左の傍のなる藤村

此の邊を娘あゆみけたるに少のなと君らも

増後法師

行幸のちうりらむて言叶山を境と月こそま

今西法師

藤原のけりしとてもあはれにちるしに成りて

宗祇法師

藤原の御代にゆきとてあはれに成りて

水井良值室女

藤原の御代にゆきとてあはれに成りて

清津友原忠貞室女

藤原の御代にゆきとてあはれに成りて

藤原友室女

藤原の御代にゆきとてあはれに成りて

年譜前抄政大臣

君の意に事奉するの契りとしむまは河内の人ありて後

友原一平息女

好ましくおもしろくあひひと夕暮の海をくまの地を渡る

買東大夫信源家光

の幸生らるゝおたゝぬに千代はゆかするお舟とたぬらん

飛鳥井雅直

あそひぬ月の光とてあそびぬはいて遠く有川の境

長安國師

いはとてお枯とてあそびぬはいてよしの中の春とてあそ

入乃前大臣大信信尹

あそびぬとてあそびぬの糖とてあそびぬ中の春とてあそびぬ

中院前大臣通村

敬しぬとてあそびぬはいてあそびぬはいてあそびぬはいて

鳥丸大納言之史

鳥丸大納言の角の流の事と夏せうの事と

な光明院御製

えし秋とみ屋人なをわのうしと頼のうの事と

後西院御製

はゆらうと女はあんなとあんなとあんなと

拾遺集^{二十}三月三日三夜^三のりちのりち

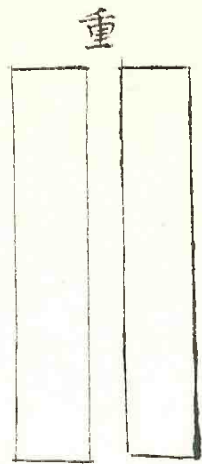
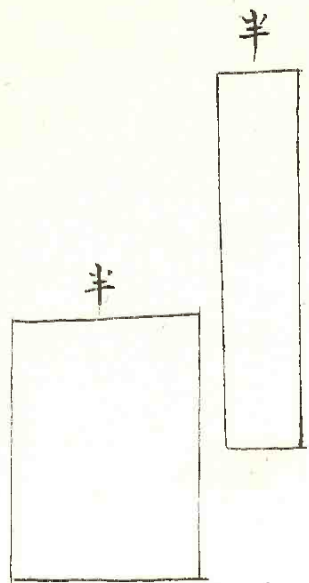
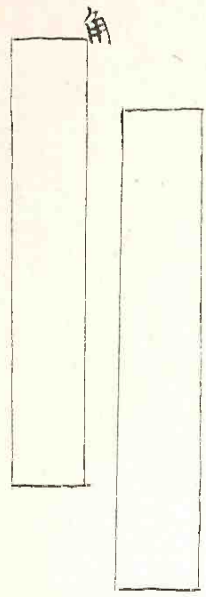
な原実方朝臣

いししちのりちのりちのりちのりちのりちのりち

はゆらうと女はあんなとあんなとあんなと

えし秋とみ屋人なをわのうしと頼のうの事と

はゆらうと女はあんなとあんなとあんなと



角紙短冊拵^{ツミ}重本角紙
 角半重とりのことおぼし
 但し^お終^おわ^おは^おす^おの^お処^おに^おお^おけ^おべ^おい
 歌^おの^お夏^お秋^お冬^お雜^お之^お紙^お紙
 萩^お夜^お羈^お旅^おの^お紙^お紙
 亥^おめ^おの^おも^おの^おり^おの^お紙^お紙
 奇^おと^おの^お紙^お紙
 奇^おと^おの^お紙^お紙
 奇^おと^おの^お紙^お紙

或人平清盛入道佛御前ヲ舞ト看ケ所
描テたリ繪ノ一ツ詞ヲ證セ々々云ハ々々ハハ戲ナリ
海ノ邊ノ子ノ

梨園回雪且アシメ

陽臺春嫩黃鶯伴芳林綠ワカサ

柳巷裏風夕ノリス

青樓月細翠蛾含遠山煙クニ

噫ア

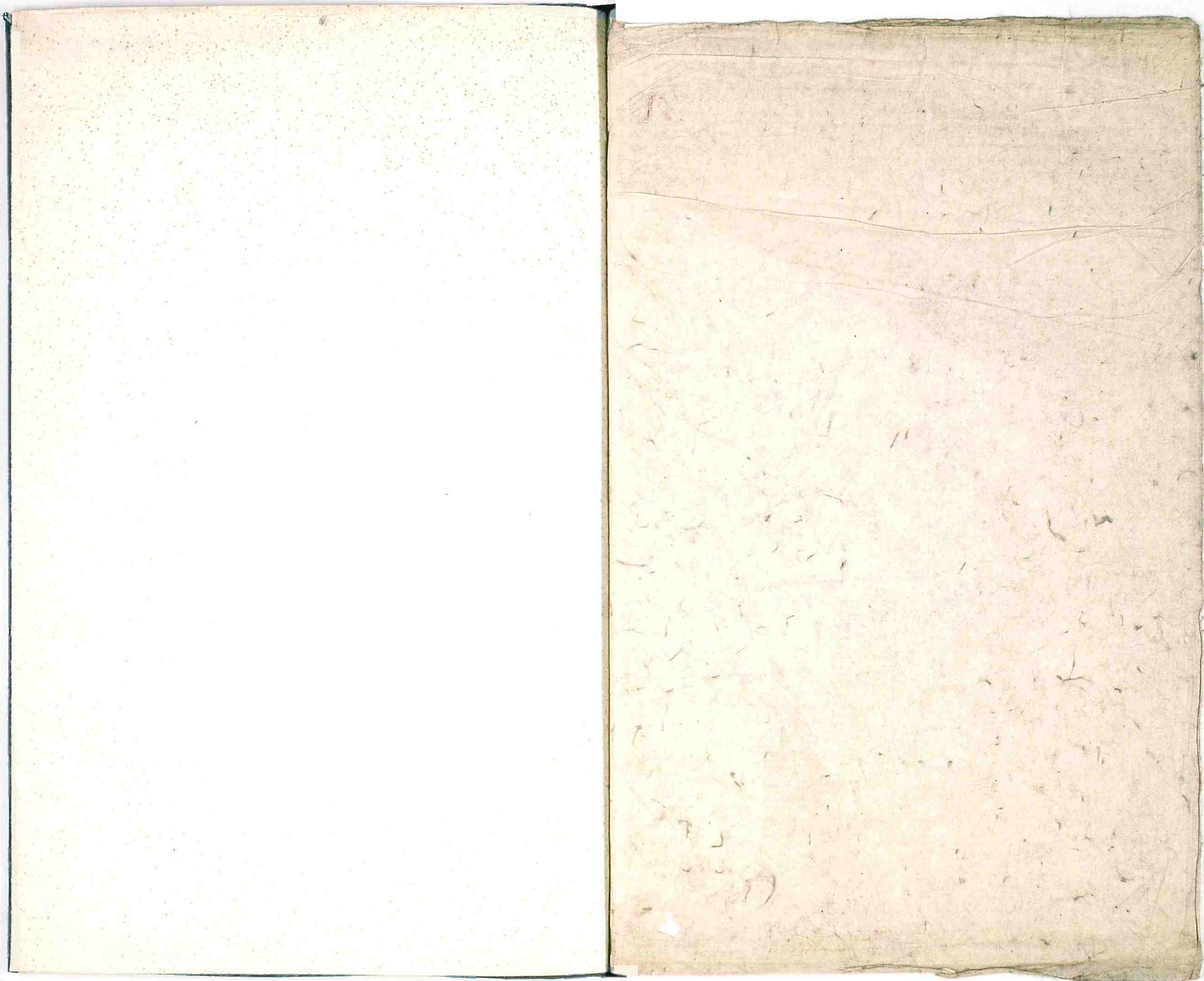
嵯峨菴室

終老ヒ盡クシ二ニ喬カホ妍コキ

長講鬼簿

俱結ヒ了ヒ一佛緣シ

戊子季穉望



愛 知 県



1103280299